



ロルカ全詩集

Ⅱ

青土社

ロルカ全詩集Ⅱ

©1979, Seidosha.

昭和五四年四月二〇日印刷

昭和五四年五月一〇日発行

定価——四八〇〇円 0390-900306-3978

著者——フェデリコ・ガルシア・ロルカ

訳者——小海永二

発行者——清水康

発行所——青土社

東京都千代田区神田神保町一―二九 千101 電二九二―七〇七六 振替東京(九)一九二九五五

印刷所——東陽印刷

製本所——美成社

ロルカ全詩集Ⅱ 目次

ジプシー歌集（一九二四年—一九二七年） 9

- 1 月よ、月よのロマンセ 10
2 プレシオーサと風 13
3 喧嘩 18
4 夢遊病者のロマンセ 21
5 ジプシー尼僧 27
6 不貞なる人妻 30
7 黒い苦しみのロマンセ 34
8 聖ミカエル（グラナダ） 38
9 聖ラファエル（コルドバ） 42
10 聖ガブリエル（セビーリヤ） 46
11 セビーリヤへの路上での アントニート・エル・カンポリオの捕縛 52
12 アントニート・エル・カンポリオの死 56
13 愛に死せる者 60
14 神に召された者のロマンセ 64
15 スペイン警察兵のロマンセ 68
16 三つの歴史的ロマンセ 77
17 聖女オラーリヤの殉教 77

17 馬上のドン・ペドロのあざ笑ひ 83

18 タマルとアムノン 89

ニュー・ヨークにおける詩人（一九二九年—一九三〇年） 97

I ハコロンビア大学での孤独の詩篇Ⅴ 98

散歩の帰りに 98 一九一〇年（幕間） 99 三人の友の寓話

と輪唱 101 マントンでのお前の幼年期 106

II ハ黒人たちⅤ 109

黒人たちの基準と楽園 109 ハーレムの王へのオード 111 見

捨てられた教会 120

III ハ街と夢Ⅴ 123

死のダンス 123 嘔吐する群衆の風景 129 放尿する群衆の風

景 132 暗殺 135 ハドソン河でのクリスマス 136 眠りのな

い町 139 ニュー・ヨークの盲の全景 142 キリストの誕生 145

あけぼの 147

IV ハイーデン・ミルズ湖の詩篇Ⅴ 149

イーデン湖の二重の詩 149 生きた空 152

V ハ農場主の小屋でⅤ 156

スタントン少年 156 牡牛 160 井戸の中で溺れ死んだ少女 162

VI ハ死への序曲Ⅴ 165

死 165 空虚の夜想曲 166 二基の墓と一頭のアッシリア犬

とを伴った風景 172 廃墟 174 月と昆虫たちの全景と 176

VII 八都市への帰還 V 182

ニュー・ヨーク 182 ユダヤ人墓地 187

VIII 八二つのオード V 192

ローマに向けた叫び 192 ウォルト・ホイットマンへのオード 196

IX 八ニュー・ヨークからの逃亡 V 206

小さなウイーン・ワルツ 206 枝々の中のワルツ 209

X 八詩人はハバナに到着する V 212

キューバの黒人の楽の調べ 212 ささやかな限らない詩 214

〔月は遂に停まることができた〕 216

イグナシオ・サンチェス・

メヒーアスへの哀悼歌（一九三五年） 221

イグナシオ・サンチェス・メヒーアスへの哀悼歌 223

1 負傷と死 223 2 流された血 225 3 現存する肉体 231 4 不在の魂 234

ガリーシアの六つの詩篇（一九三五年） 237

サンティアゴの町への恋歌 マドリガール 238

小舟に乗った聖母マリアのロマンセ 240

少年店員の歌 カンタリーガ 242

死んだ若者の夜想曲 245

死んだロサリア・カストロのための子守唄 247

サンティアゴの月の踊り 249

タマリット詩集（一九三六年） 253

ハガセーラ集Ⅴ 254

I 予期せぬ恋のガセーラ 254 II 恐ろしい眼前の光景のガセーラ

ラ 256 III 絶望的な恋のガセーラ 258 IV 秘めようとする恋のガセーラ

260 V 死んだ子供のガセーラ 262 VI 苦い根のガセーラ

264 VII 恋の思い出のガセーラ 266 VIII 暗い死のガセーラ

269 IX 驚くべき恋のガセーラ 271 X 逃亡のガセーラ 272

XI 百年の恋のガセーラ 274 XII 朝の市場のガセーラ 276

ハカシーダ集Ⅴ 278

I 水に傷ついた子供のカシーダ 278 II 泣き声のカシーダ 281

III 枝々のカシーダ 283 IV 横たわる女のカシーダ 285 V 野天

での夢のカシーダ 287 VI 不可能な手のカシーダ 289 VII バラ
 のカシーダ 291 VIII 金色の娘のカシーダ 293 IX 暗い鳩のカシ
 ーダ 295

拾遺詩篇 297

これは序詩です 298

バラへの祈り 304

褐色の娘たちの庭 312

回廊 312 アカンア 313 出会い 313 レモン畑 314
 水の組曲 317

郷土 317 戦慄 318 アカシア 318 曲線 319 蜜蜂の巣箱 320 北 321 南 322
 東 323 西 323

鏡の組曲 324

シンボル 324 大きな鏡 325 反射光 325 光線 326 返答 326 大地 327 綺想 カッソ 327
 曲 328 神道 329 眼 330 始まり 331 眠る鏡への子守唄 332 風 333 混乱 333

淀み 335

夜 336

I スケッチ 336 II 曲序 337
 彗星 338

時計の森 339

〔ほくは 時計の〕 339 茂み 340 全景 341 彼 342 夢の消える場所 343 時計

の木霊 344 最初にして最後の瞑想 345 時刻というスフィンクス 346

風の三つのエピソード 348

I 348 II 349 III 349

植物図鑑 351

第I巻 351 第II巻 352 第III巻 354

空の版画 356

学校 358

歌の一つ一つが 360

アンダルシアの水夫たちの夜の歌 361

小さな死の歌 364

オメガ 367

基準 368

月と昆虫たちの全景と 370

孤独 372

ホセ・デ・シリア・イ・エスカランテの死について 376

詩人は彼の恋人に 自分に手紙を書いてくれるようにと頼む 378

ソネット 380

ソネット 382

ソネット 384

ペルー乙女のカルメーラに 386

飛び去ったメルセデスに 388

死んだメルセデスのための子守唄 390

歌 391

サルバドール・ダリへのオード 393

半人半魚の魔女と騎銃兵 402

聖体へのオード 404

I 聖体顯示 404 II 世界 407

大地と月 411

「ぼくは感じる」 414

「顔を地面に向けて」 415

グラナーダはロルカの暗殺者を発見した
ジャン・ビエール・シャブロール 417

解説 437

略年譜 449

訳者あとがき 455

ジプシー歌集（一九二四年―一九二七年）

1 月よ、月よのロマンセ

コンチータ・ガルシア・ロルカに

甘松^{ナルド}のポリソンを腰につけ

月が鍛冶場にやって来た。

子供が月をじつと見る　じつと見る。

子供が月を見つめてる。

月が　震える空気の中で

その両腕を動かして、

みだらに　そして清らかに、

固い錫の　乳房を見せる。

——月よ　お逃げよ、月よ、月。

もしもジプシーたちが来てごらん、

あんたの心臓で　首飾りや

白い指輪を作っちまうよ。

——坊や、あたしを踊らせといて。

ジブシーたちがやってきたら、

鉄床かなどの上で 小さなお眼々をつむってる

坊やを見つけることでしょう。

——月よ お逃げよ、月よ、月、

もうぼくには聞こえるんだよ あの子ブシーたちの馬の音。

——坊や、あたしをほっというて、あたしの

糊のついた白服を 踏まないで。

平原の太鼓を打ちながら

騎手が近づきつつあった。

鍛冶場の中で 子供は

じっと 眼を閉じている。

オリーヴの林を抜けて、

青銅と夢の、ジブシーたちがやって来ていた。

頭を起こし

眼を半ば閉じながら。

何と梟の歌うこと、

アーイ 何と木の中で歌うこと！

月が 子供の手を引いて

空を行く。

鍛冶場の中では ジブシーたちが、

大声あげて、泣いている。

空気が月をじっと見守る、じっと見守る、

空気が月を見守っている。

* ポリソン……腰につけてスカートを払げ、ふくらませる道具。

2 プレシオーサと風

ダマソ・アロンソに

羊皮紙の月を鳴らして

プレシオーサ^{*}がやって来る、

水晶と月桂樹との

水陸両用の小道を通って。

星一つない静寂が

耳^{ミミ}について離^{ハナレ}れない音^{コト}を逃^{ニゲ}れて

落ちるところで、海が打ち寄せ歌っている

魚でいっぱい^{イッパイ}のその夜を。

山脈の峰々では

騎銃兵たちが眠っている、

イギリス人たちの住んでいる

白い塔を警備しながら。

そして 水のジブシーたちは

気晴らしに 持ち上げている、
ほら貝のあずま屋と
緑の松の枝々とを。

*

羊皮紙の月を鳴らして
プレシオーサがやって来る。
その姿を見て 起き上った、
決して眠らぬあの風が。
天の舌でふくれ上った
素っ裸の大男 聖クリストバル、
ありもせぬ優しい風笛を吹き鳴らして
娘の姿をじっと見つめる。

——娘よ、おれにお前の着物を上げさせて
お前の身体を見せてくれ。
おれの昔からの指の間で
お前の腹の青いバラを 開いてみせろ！